

はじめに

昨年は、令和2年7月豪雨や台風による自然災害に見舞われ、多くの人的・物的被害が生じました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、消防活動においても救急隊をはじめとして感染防止の徹底など様々な対応が求められました。

近年、気候変動の影響により気象災害は激甚化・頻発化し、また、南海トラフ地震や首都直下地震などの大規模地震も今後発生することが危惧されています。このような災害に備えるため、防災・減災、国土強靱化の取組を進めることが重要であり、国民の生命・財産を守る消防としても体制をさらに充実強化していく必要があります。

令和2年版消防白書では、特集として、最近の大規模自然災害への対応等のほか、新型コロナウイルス感染症対策、消防団を中核とした地域防災力の充実強化、Society 5.0時代におけるAI等の活用、戸別受信機等の配備促進に向けた取組について記載しています。

第1章以下では、火災や風水害をはじめとする各種災害の現況と課題、消防防災の組織と活動、国民保護への対応、自主的な防火防災活動と災害に強い地域づくり、国際的課題への対応及び消防防災の科学技術の研究・開発について記載しています。

この白書が、消防防災に対する国民の皆様のご理解を深めるとともに、国や地方公共団体だけでなく、住民、企業も含めた総合的な消防防災体制を確立するに当たって、広く活用いただけることを願っています。

令和3年1月